

「病弱特別支援学校におけるキャリア教育の充実について」
～ 精神疾患・心身症のある児童生徒を中心として ～

1 はじめに

本校は小学部・中学部・高等部に加えて訪問教育部が設置された病弱特別支援学校であり、病弱のほか肢体不自由のある児童生徒も対象としている。以前は隣接する長崎川棚医療センターに入院する筋ジストロフィーや慢性疾患の児童生徒がほとんどであったが、自宅通学生を受け入れるようになったことや平成17年に小児科病棟が閉鎖されたこと、筋ジスの児童生徒の減少に伴い児童生徒の疾患も大きく変化した。現在は、児童生徒の80%以上が心身症や精神疾患を抱えており、そのほとんどが発達障害の2次障害として発症し、人との関わりや集団への参加が苦手であるために不登校となり学習空白が大きいことに加え、様々な社会経験が不足している状態にある。

人との関わりの中で傷ついて人との信頼関係が構築できないことや心と身体のバランスを崩して継続的な学習ができないことなど、大きな不安や悩みを抱える児童生徒は、学校生活そのものが不安定で、将来の希望や見通しなどをもてずにいる。そのような状態にある児童生徒にとってのキャリア教育とはどうあるべきか、自らの在り方や生き方を考えるための指導はどうあるべきか、自分の適性を生かして社会の中を生き抜くための力をどう育成すべきかという困難な研究に取り組むこととした。

2 研究の内容

(1) 1年目

研究を進めるにあたり、研究テーマを「自分の適性を生かし、社会の中で生きぬく力の育成」と設定するとともに、研究が円滑に進むように研究推進委員会の下部組織として、教頭・部主事・研究主任・進路指導主事・教務主任・学年主任・自立活動担当・研修部員で編成するプロジェクトチームを置き、小学部・中学部・高等部1年・2年・3年の5グループに分かれて研究をスタートさせた。

3か年の研究の進め方として、「本校が示しているキャリア教育全体計画を活用しながら、学部ごとに身に付けさせたい力を決めて学部ごとの目指す児童生徒像を確立する。また、キャリア発達課題や病弱教育におけるキャリア教育の特性などを共通理解しながら授業実践を進め、その成果を教育課程に反映し、キャリア教育の更なる充実につなげる」こととし、まずは、学部ごとの目指す児童生徒像を定めるための「身に付けさせたい力」を明らかにする作業に着手した。この作業を進める中で、児童生徒の正確な実態把握が必要なことに気付き、全ての児童生徒を同じ尺度で見ることのできる「精神疾患・心身症（こころの病気）のある子どもへの多相的多階層支援 Co-MaMe」（国立特別支援教育総合研究所作成）を活用して実態を把握し、本校の児童生徒の課題や特性、学校として課題にすべきことを整理していった。

この作業により、ほとんどの児童生徒がキャリア教育の基礎的・汎用的能力の四つの項目の中の「自己理解、自己管理能力」に課題があり、その力をつけるための指導の必要性を認識し、そのための授業作りや授業改善を2年目の研究とすべきことを導き出した。

各部の目指す児童生徒像の作成には至らなかったが、本校の目指す児童生徒像について校長から提案があり、各研究グループで明らかにした課題等とその内容が合致し妥当であるかどうかを確認、検討のうえ、四つの柱からなる目指す児童生徒像を定めることができた。

- | |
|---|
| ○友達や周囲の人たちとのつながりを大切にし、思いやりと感謝の気持ちを表現する児童生徒
(人間関係形成・社会形成能力) |
| ○自分の病気や障害を理解し、健康の回復・改善のために努力する児童生徒
(自己理解・自己管理能力) |
| ○目標に向かってあきらめずに学び、挑戦し、自分の力を高めようとする児童生徒
(課題対応能力) |
| ○自分のよさや可能性に気付き、将来や自分の生き方について考え、行動できる児童生徒
(キャリアプランニング能力) |

(2) 2年目

前年度に引き続きプロジェクトチームと5グループを中心に、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の「自己理解・自己管理能力」を重点項目として定め、それらをもつ授業の在り方について研究を実施した。小学部では教科学習(体育)を中心に教育活動全般で、育てたい力として「教師と一緒に自分の得意なことやできることを考えて行動する」とし、授業実践を行った。自己選択、自分のできることや難しいことを伝える、気持ちの表現などを学習活動に取り入れて研究授業を行った。中学部では育てたい力として「自分の病気や特性への理解を深め、自ら改善・工夫しようとする」とし、総合的な学習の時間で研究授業を行った。高等部では育てたい力として「自分の得意なことや向き不向き、できることできないことが分かり受け入れて、前向きにとらえる力をつける」とし、自立活動について検討、研究授業を行い、教師と1対1の関わりが自己理解への足掛かりになることを実感した。このあと、高等部3年の指導の実際で詳しく説明する。

2年目の研究においては、昨年度定めた「目指す児童生徒像」を学校経営の柱とするとともに、2年目の研究の中心である研究授業の結果及び研究成果を教育課程に反映させるために、研究と教育課程検討を接合することにも取り組んだ。その結果として、好きな活動に取り組みながら自分の体調や気持ちを整たり、教師とのやりとり等を学んだりして自己理解や人間関係形成を図るための学習として「自立活動」が有効であり、キャリア教育の土台をなすものの一つであることを認識し、令和3年度から授業時数を増やすなどの教育課程の改善ができた。特に、中学部においては病状が重く教室や授業に入れない生徒に対して教科学習を自立活動に替えて柔軟に指導ができる教育課程を編成した。併せて、自立活動の充実を図るために、新たに自立活動部の新設にもつながった。さらには、キャリア発達を促すためには基礎学力の充実が大切であることにも気付き、高等部ではI課程をスタンダードとベーシックに分けて丁寧な指導することや、学習空白及び学習のつまづきを補うための「ステップアップ学習」を学校設定教科として設けるなど、大きな変革につながった1年となった。

ア 高等部3年生の指導の実際

(ア) 実態把握と自立活動の計画

『自己理解・自己管理能力』を高めるためには、自立活動での授業実践が最も効果的であろうとの予測を立て、授業実践を積み重ねることとした。授業を行うにあたって、前年度に実施したCo-MaMe

のアセスメントシートの再チェックを行い、整理シートと Co-MaMe の支援・配慮のイメージ図で生徒がどの位置にいるか学級に関わる複数の教員で共通理解を図った。その上で、自立活動で取り上げるべき課題を協議し、目標設定を行うといった手順に従って目標設定を行った。

生徒が自分自身の課題に対して意識を向けるためには、個別に指導する時間が必要であると考え、これまで学級等の集団での活動の中で指導していた方法に加えて、個別指導を組み込むことにした。週 2 時間の自立活動の時間のうちの 1 時間をグループ学習、もう 1 時間を個別学習とし、個別学習の半分（25 分間）を面談、もう半分の（25 分間）を個別学習と設定した。

	月曜日 1 時間目（グループ学習）	金曜日 5 時間目（個別学習）
前半 25 分間	コミュニケーション活動を含んだ軽運動	面談／個別学習
後半 25 分間	課題別学習	個別学習／面談

月曜日のグループ学習は、週の始まりということもあり体と心の調子を整え、気持ちを前向きにするために、前半の 25 分間で軽運動を行った。軽運動にはゲーム的な要素を取り入れ、作戦タイムなど話し合う時間をとるようにしてコミュニケーションを促せるように工夫した。後半は、生徒を目標別に二つのグループに分けて、トーキングゲームを中心としたコミュニケーションの学習や人との関わり方に関するスキル学習を行った。

金曜日の個別学習は、25 分間を面談とし、目標の確認や目標を達成するための方策、振り返りを教師とじっくり話すことで、生徒自身に自分の課題を認識させるようにした。残りの 25 分間は自分の課題に向き合う時間とし、教師と話し合って決めた学習内容に各自それぞれで取り組んだ。

（イ）自分メーターの活用

生徒自身に自分の課題の認識と自己理解を深めさせるための手段として、特総研作成の「自分メーター」を活用した。初回面談において、自分と教師（他者）の二つの視点でグラフ化した「自分メーター」を使って、得意なことや苦手なことなど自分の特徴について教師と一緒に確認し、課題解決に向けた目標設定を生徒と教師間で共有するようにした。その後は、学期の終わりごとに振り返りとして活用し、最終的には生徒と教師のグラフが合うなど、正しく自分を見つめる目が養われる結果も見られた。自己理解に大いに役立てることができた。

（ウ）マイプランシートの活用

学習の振り返りのために、特総研と埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校作成の「マイプラン面接」を参考に本校で作成した「マイプランシート」を活用した。面談時にただ話すだけでなく、「マイプランシート」に 1 週間の取組と振り返りを記すことで学習の積み重ねが視覚化され、生徒だけでなく教師にとっても学習を進める上でよい指針となった。1 週間、1 か月の学習の記録が残るため、どれだけ成長できたか、次の目標を何にするべきかなどが見えやすくなった。このマイプランシートは、グループ学習の振り返りもできるようにしており、自立活動のすべての学習が見えやすく、面談の時間にグループ学習の振り返りを同時に行うことができ、大変効果的に使うことができた。

マイプランシート

1- (顔)
2- (顔)
3- (顔)
4- (顔)
5- (顔)

個別活動			全体活動		
日付	今日の目標・活動内容	よかったところ・改善点	日付	活動内容	よかったところ・改善点
4/2	【今日の目標】 自分の話を先生に伝えること		4/2		
4/3	【今日の目標】 自分の話を先生に伝えること		4/3		
4/4	【今日の目標】 自分の話を先生に伝えること		4/4		
4/5	【今日の目標】 自分の話を先生に伝えること		4/5		
4/6	【今日の目標】 自分の話を先生に伝えること		4/6		
4/7	【今日の目標】 自分の話を先生に伝えること		4/7		
4/8	【今日の目標】 自分の話を先生に伝えること		4/8		
4/9	【今日の目標】 自分の話を先生に伝えること		4/9		
4/10	【今日の目標】 自分の話を先生に伝えること		4/10		
4/11	【今日の目標】 自分の話を先生に伝えること		4/11		
4/12	【今日の目標】 自分の話を先生に伝えること		4/12		

個別面談・学習

全体活動

←

振り返りや対策・実践

→

1 か月の振り返り

(エ) 成果

自立活動の時間に個別学習を取り入れたことで、話すことが苦手な生徒も少しずつ心を開き、自分の気持ちや状況を伝えることができ、教師とのやりとりを通して自分自身を理解することにつながった。また、自分の課題に向き合うことに抵抗感の強い生徒も、個別に教師と話すことを積み重ねることで、スモールステップで自分の課題と向き合うことができ、少しずつ自分の気持ちを落ち着いて伝えることができるようになり、生徒自身が自分の変化に気付くことができた。

このことは、卒業を控えている3年生にとって、卒業後の不安の軽減につながるとともに、次のステップへの自信となった。生徒にとって、自分の話を真剣に聞いてもらえる時間は、自分を振り返る時間であると同時に、自分が大切にされていると感ずることができる時間でもある。その時間の積み重ねが、本校生徒には必要であると研究を通して実感できた。

イ 事例①（適応障害・過敏性腸症候群）

対象生徒は落ち着いた学校生活を送り、穏やかな性格である。不安が強いときに、集団の中に入ることができない場合があった。特に、緊張感のある静かな場面や大きな集団が苦手であり、集団から離れた場所に座って参加することが多く、自信のなさや経験不足から周りを意識して、自分の気持ちや意見を伝えることが難しく人前に立つことが苦手であった。

自立活動の個別面談では、面談で「自分メーター」から自分の課題を教師と確認し、「集団への参加」が課題であるとし、そのための対策を一緒に考え、体育の列に並ぶことから始めた。細かく教師とマイプランシートで振り返りを重ねることで、少しずつ集団に抵抗なく入ることができるようになり、卒業式には代表として答辞を読むことができた。卒業式の日、「“自立活動で列に並ぶ”と目標を決めていなかったらここまで集団に入ることはできなかった」と教師に伝えることができた。

今では専門学校の授業にも問題なく参加できるようになっている。本人が先日、学校に近況報告に来て、「今でも JR に乗っている間はお腹が痛くなるけれど、どうしても難しい時には JR を降りて、次の JR で行けばいいやと思えるようになりました」という言葉を聞いて、自己理解がさらに深まり、心理面での成長や、自分で解決しようとする力がついてきていることを感じる事ができた。

日付	今週の目標・活動内容	よかったところ・改善点	5段階評価
6/2	【今週の目標】 しせいを良くする 3年生の体育で列に入る	体育では後ろたづねに列に入れたので良かった。しせいはときどき忘れていた	4
6/9	【活動内容】 面談 3年生の体育で池田エムの前に並ぶ	体育では列の後ろに並べたしせいのことは忘れていた 教師からのコメント 体育で並べたのはよかったですね!! やさしく頑張るね!! 大事だね!! (すうね!!) がんばっていきましょう!!	4
6/19	【今週の目標】 3年生の体育で池田エムの前に並ぶ 【活動内容】 オープンキャンパスの質問と答える	体育のとき池田エムの前に並べた。テストのときプレイルームで池田エムの前に並べた。 教師からのコメント good!! がんばって!! (かんぱい!!) がんばって!! がんばって!!	4

初期のマイプランシートでは、「体育で列に並ぶ」ことを目標に取組を始めた。

2学期は、気心の知れている女子生徒の前に並ぶことから始め男子生徒の前に並ぶことができるようになった。以前より不安が少なくなったが、環境によっては難しい場合も、面談で話すことでその理由を明らかにできた。

日付	今週の目標・活動内容	よかったところ・改善点	5段階評価
7/11	【今週の目標】 全体的に体育で池田エムの前に並ぶ 委員会で見習いの	前に並ぶこととしてから、前にも後ろにも並ぶことができた。委員会で見習いの活動は良かった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。	5
8/18	【今週の目標】 全体的に体育で池田エムの前に並ぶ 委員会で見習いの	全体的に体育で池田エムの前に並ぶことができた。委員会で見習いの活動は良かった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。	2
9/18	【活動内容】 委員会で見習いの	委員会で見習いの活動は良かった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。	4
10/2	【今週の目標】 3年生の体育で池田エムの前に並ぶ 【活動内容】 スリシューティングをする	3年生の体育で池田エムの前に並ぶことができた。スリシューティングをする活動は良かった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。	4

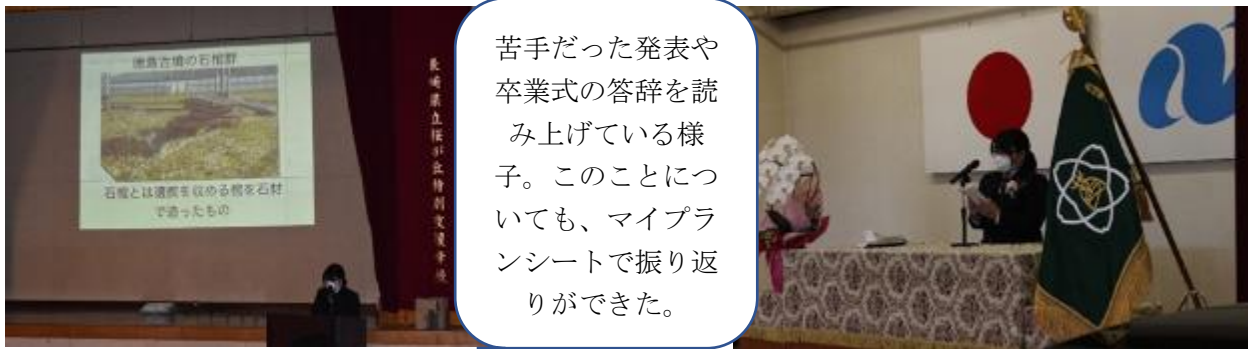
日付	今週の目標・活動内容	よかったところ・改善点	5段階評価
11/6	【活動内容】 凍結の過去問とく	体育で中村くんの前に並ぶことができた。凍結の過去問とく活動は良かった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。	5
11/13	【今週の目標】 体育で中村くんの前に並ぶ 【活動内容】 ビジネス検定の勉強をする	体育で中村くんの前に並ぶことができた。ビジネス検定の勉強をする活動は良かった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。	5

日付	今週の目標・活動内容	よかったところ・改善点	5段階評価
12/1	【今週の目標】 探究の発表会で質問で来た。(2回)	探究の発表会で質問で来た。(2回)活動は良かった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。	5
12/1	【活動内容】 卒業式練習で席に座れた。植球はかった。緊張はしたけれどあとでは思っていた。各級の前で予備会でも座れた。	卒業式練習で席に座れた。植球はかった。緊張はしたけれどあとでは思っていた。各級の前で予備会でも座れた。活動は良かった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。	5
12/1	【活動内容】 予行練習でも席に座れた。前に座っても後ろを見ないようにする。早く行くようにする。	予行練習でも席に座れた。前に座っても後ろを見ないようにする。早く行くようにする。活動は良かった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。意見の場は前より少なくなった。	5

3学期は体育以外の学習の場で無理なく参加できるようになり、進路先の専門学校での対策まで立てることができた。

卒業式後の手紙では面談での最初の目標立ててよかったことと、進路先での面接や試験でも無理なく受けることができたと報告している。

4年間、大変な思いをしました。1年生のときから授業は一編でしたが、3年生になって同じクラスになり、今年は本当にのせきになりました。先生と一緒に初めての個別自立をしたときに、「体育で列に入る」という目標を決めていたからここまで集団に慣れることはできなかったと思います。本当に少しずつ頑張ってきた良かったなと思いました。3月20日の式典のときも20人くらいの教室の中に入って式典を受けることができたことばなが成長したなあと感じました。腹痛もなくて、面接もうまくいったのでとてもうれしかったです。朝の練習とびやすくて、朝早くから練習できるようになりました。楽しかったです。先生に会えたいのは本当にうれしいです。新しい環境でも頑張ります。今、頑張っていることは自動車学校に通うことです。今までありがとうございました。これからも頑張ります。



苦手だった発表や卒業式の答辞を読み上げている様子。このことについても、マイプラシードで振り返りができた。

（ウ）事例②（愛着障害・適応障害・抑うつ状態）【キャリア教育研究に取り組む以前の卒業生】

対象生徒は本当の自分の気持ちや状況を伝えることが難しく、周囲から尋ねられても「大丈夫です」と答え、オーバーワークとなり気持ちや体調のコントロールが難しい実態があった。卒業後は障害者雇用として老人福祉施設で調理補助として就職し1年3か月勤務することができていたが、その間2回入院することが見られ、離職の可能性が高くなっている。その理由の一つとして本人の自己理解を深める授業への取組ができていないことがあげられる。当時の本校の自立活動の学習内容としては、コミュニケーション学習と称して運動会や文化祭の話し合い活動を行うことが中心であった。個別に話をすることは放課後の時間に取ってはいたが、自立活動として「あなたのことを、自分も教師も理解するよ」という姿勢で突っ込んで話すことは難しかった。そのため、彼女の中で自己肯定感を高めることができなかったり、自分の状況や気持ちを伝えることができなかったりして、就労後に不調になることが見られた。

（イ）と（ウ）の事例の比較からもわかるように、自立活動で自己理解を深めることは高等部の生徒にはとても大事なことで必要であると考え。たった1年でも、このように卒業後の生徒に対して、成果の差が出ているので、同じような取組を次年度は高等部全体で取り組んでいくこととした。

（3）3年目

今年度は、研究の効果を検証する年と位置付け、前年度改善した授業実践の積み重ねと更に他教科や他領域でも授業改善に取り組むとともに、併せて改善した教育課程の実施に取り組んでいる。2学期からは各研究グループにおいて、事例研究に取り組み、研究をより深めていくことにしている。また、卒業生の事例によって、キャリア教育を考える上で大切なことは、卒業して社会に出た卒業生や卒業生を受け入れる進路先からの学びであることに気付き、「卒業までに付けておくべき力」についてのアンケート調査を実施し、その結果をキャリア教育全体計画の見直しや更なる授業改善と教育課程改善につなげるための準備を始めた。最終的には学校経営の基盤である目指す児童生徒像をキャリア教育の視点から再検討を行い、本校が目指すキャリア教育の方向性を確かなものにしていきたいと考えている。

3 おわりに

本校の児童生徒は、病気により人との関わりで心が傷つき、人との信頼関係が構築できず、大きな不安を抱え、日常生活や学校生活で経験したり学んだりすることが難しい状況にある。だからこそ不安を軽減する環境を整え、不安なく関われる教師と過ごしながら「人と関わる・心を育てる・自信をつける」ことこそがキャリア発達を促すために最も大切な学びであることに、この2年間の研究を通して確認し、学校としての解を見出した。